

第14回「助成研究吉田秀雄賞」決定

当財団は、第14回「助成研究吉田秀雄賞」の受賞者を決定しました。本賞は、当財団が行っているマーケティングおよびコミュニケーションに関する研究助成事業の成果の中から特に優れた研究を顕彰するものです。選考委員会（選考委員長 亀井昭宏早稲田大学名誉教授）による厳正な審査の結果、平成27年度に当財団が助成した研究成果（常勤研究者の部4件、大学院生の部7件）の中から、下記の方々が受賞されました。

贈賞式は、11月9日（水）当財団で開催され、理事長あいさつ、選考委員長講評に続いて賞状授与、受賞者あいさつが行われました。

なお、受賞論文の全文は「アド・ミュージアム東京」広告図書館で公開されています。



第14回助成研究吉田秀雄賞受賞者の方々（前列3人と後列中央2人）と亀井昭宏選考委員長（後列左から2人目）

受賞者一覧

常勤研究者の部

（肩書は成果提出時のもの）

賞	研究テーマ	研究者名
奨励賞 （副賞10万円）	『広報の効果測定に関する実証的研究』	橋元良明（東京大学大学院情報学環教授） 北見幸一（㈱電通パブリックリレーションズコミュニケーションデザイン局） 中 憲仁（㈱電通パブリックリレーションズコミュニケーションデザイン局） 和田朋子（㈱電通パブリックリレーションズコミュニケーションデザイン局） 河井大介（東京大学大学院情報学環助教） 天野美穂子（東京大学大学院学際情報学府博士課程） 長濱 憲（㈱電通パブリックリレーションズコミュニケーションデザイン局／ 東京大学大学院学際情報学府博士課程） 曾我部圭織（東京大学大学院学際情報学府修士課程） 戸木亜沙美（東京大学大学院学際情報学府修士課程）

大学院生の部

準吉田秀雄賞 （副賞20万円）	『新製品の採用意思決定への事例ベース意思決定理論（CBDT）の適用』	郷香野子（慶應義塾大学大学院商学研究科後期博士課程）
奨励賞 （副賞10万円）	『風評被害による買い控えの低減に効果的なマーケティング・コミュニケーション戦略とは？～実務レベルへの応用を目指した感情的メッセージと論理的メッセージとの比較検討～』	工藤大介（同志社大学大学院心理学研究科博士後期課程）

※常勤研究者部門の吉田秀雄賞／準吉田秀雄賞、大学院生部門の吉田秀雄賞は該当なし



受賞者の橋元良明氏（中央右）と当財団理事長（中央左）



受賞者の郷香野子氏（右）



受賞者の工藤大介氏（右）

第14回「助成研究吉田秀雄賞」審査経過報告

選考委員長 亀井 昭宏

2016(平成28)年3月末をもって研究が終了し、財団事務局宛てにその成果としての研究報告書が提出された助成研究は、常勤研究者の部が2年間の継続研究と1年限りの単年度研究の両者を含めて計4件、大学院生の部が7件であった。これらすべてを対象として、平成28年度・第14回「助成研究吉田秀雄賞」の該当著作(以下、論文と称する)を選定すべく、これまでと同様2回にわたって審査が行われた。

まず第1次審査では、外部有識者(大学教員)2名による綿密かつ慎重な審査が第2次審査と全く同一の基準に照らして行われ、合計得点による順位づけと該当すると思われる賞の評価がなされた。その結果について財団事務局と私で精査を行い、合計得点で明らかに下位のものとのが見られた両部門それぞれ上位3論文を第2次審査の対象とすることになった。

第2次審査は、助成研究選考委員会の委員全員(12名)による事前の書面審査と、その結果を持ち寄っての口頭による審査の2段階で行われた。9月30日に開催された選考委員会には8名の委員の出席を得て、長時間にわたる意見の交換が行われ、その結果として今年度は誠に残念ながら両部門ともに「吉田秀雄賞」に該当する論文はないとの結論に至った。しかし、常勤研究者の部で「奨励賞」に該当するとの結論に至った論文が1件、大学院生の部で「準吉田秀雄賞」該当論文が1件、および「奨励賞」論文が1件選出されるという結果となった。

私見ながら、今年度の審査ほど選考委員の間で評価の分かれた年はなかった。選考委員の間で評価が真っ二つに分かれた論文が両部門ともに存在し、結果として「吉田秀雄賞」には至らなかったのは、選考委員長としても誠に残念に感じた次第である。以下、受賞論文について審査

委員会での評価(意見)を簡単にご紹介することにしたい。

まず常勤研究者の部で「奨励賞」を受賞された、橋元良明先生を代表者とする広報効果の測定に関する論文については、これまで十分に開拓されてきたとは言えない分野への新たな挑戦としての「独創性・独自性」が高く評価されたものの、実務応用面での成果の導出や論文の全体的な調整が十分ではなかったことに加えて、論旨の明確さの点でもやや難があるとの意見が出された。そうした半面、研究の発展可能性への期待は大きく、結局「奨励賞」に該当するとの結論に至ったものである。

大学院生の部で5年ぶりに「準吉田秀雄賞」に輝いた郷香野子さんの、事例ベースの意思決定理論を適用した新製品の採用意思決定についての論文は、評価基準のほとんどについて極めて高い評価が下され、論文の質の高さに加えて研究者としての今後への高い期待が寄せられていた。半面、分析対象の適切性に対する疑問や実証性の弱さの指摘などもあり、残念ながら「準吉田秀雄賞」となった次第である。

「奨励賞」に輝いた工藤大介さんの、風評被害による買い控えに対処するためのマーケティング・コミュニケーション戦略に関する論文は、全体としてよくまとまっているとの評価が得られた半面、今後深めていくべき問題や課題も多く、成果としてはやや不十分との意見が見られた。

受賞された皆さまの研究姿勢とご努力に対して深く敬意を表するとともに、心からのお祝いを申し上げたいと思う。同時に、来年度こそ両部門において「吉田秀雄賞」を受賞される論文の出現を希求する次第である。今年度に研究助成を受けておられる先生方はもちろんのこと、助成申請をご検討中の皆さまのご奮闘・ご挑戦を期待したい。

編集後記

広 報の国際比較の調査に関する特集が印象的でした。グローバル調査における論点、①印象ではなく根拠、②翻訳によるバイアス避ける、③時間軸と空間的な広がりを持つ、は他のテーマの考察にも役立つと思います。なお、今号の特集企画には、東京国際大学の和田仁先生にご協力いただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。(葡萄)

た とえば予断を持って訪れた記者に対し広報担当者が丁寧に説明した結果、記事にならなかった。このような場合の広報の効果は到底計ることができない」。今回対談に登場いただいた宮部潤一郎先生がそう話されていました。広報が担う役割の大きさと数値化の難しさが端的に表されています。(ひろた)

AD STUDIES 2016年12月25日号 通巻58号
公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
〒104-0061
東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
TEL:03-3575-1384 FAX:03-5568-4528
URL: <http://www.yhmf.jp>

発行人 森 豊子
編集長 馬場栄一
編集部 沓掛涼香 岩本紀子
編集協力 市川嘉彦、プレジデント社
表紙デザイン 八木義博+畠山大介、中谷晴子(Creative Power Unit)
撮影 片村文人

本文デザイン 中曽根孝善 南 剛
校正 株式会社ヴェリタ
印刷・製本 大日本印刷株式会社

© 公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
掲載記事・写真の無断転載を禁じます。